

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市八本松児童館	
2 指定管理者	特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘	
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和4年度 21,647人(前年度比 130.5%) ・令和3年度 16,592人 ・令和2年度 12,432人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 45,056千円 (44,367千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	リーフレットや児童館だより、初めての利用者を対象とした冊子の発行、保護者からの要望を受けてSNSをはじめ、ブログの更新や利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。さらに地域に向けて取り組んだ「どんぐりマーケット」では、子ども達が企画運営に参加しており、子ども達のやりたいことを大切に支援している。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。 なお、職員における虐待や不適切な対応を防止する取り組みについてのマニュアル「児童厚生員の倫理 コンプライアンス」を整備し、職員会議やOJTを開催して職員間で周知共有、子どもの人権に十分に配慮するとともに、子ども一人ひとりの人格を尊重して支援が行われている。また、中高生世代を対象に遊戯室を専用で利用できる時間を定めるだけでなく、遊戯室の一面に専用のスペースと物品を確保するなど、中高生世代がいつ来館しても利用しやすい環境を整えた。中学生の利用が増えたことを受けて教員が毎月来館し情報共有を行う等、中学校との連携を強化しながら育成支援に取り組んでいる。	20/18

### 三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘）による自己評価》
<p>仙台市の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針に沿い【地域でつながる・あそびでつながる児童館】を念頭に置いて、利用者に寄り添った居場所づくりに取り組んだ。</p> <p>&lt;児童健全育成事業&gt; 0～18歳の子どもが利用できる場として、安心して過ごすことができる居場所づくりを意識した関わりや取り組みを実施。移動児童館事業として【どこでも児童館】を開始し、児童館を利用したことのない親子の近くに小さな児童館活動を展開。当児童館だけでなく身近な児童館に足を運んでもらうきっかけとなった。中高生世代支援【エイトベース】では、中高生世代が利用できる場として浸透し、きょうだいで来館したり、館内外で中高生が小学生と関わり、異年齢で関わる機会が双方に生まれた。</p> <p>&lt;子育て支援事業&gt; 妊娠期からの支援として【はぐはぐ】を実施。家庭健康課のサポートを受けながら年間5回実施し、育児体験や助産師の講話が好評であった。また、ベビーマッサージやヨガなど、母親のリフレッシュと子どもとの関わりを深める支援をはじめ、季節ごとの事業も実施した。</p> <p>&lt;地域交流推進事業&gt; 3年目を迎える【どんぐりマーケット】では、児童館単独ではなく様々な団体の協力を得て開催。3日間累計で648名が来館し地域に浸透した事業となった。また、要配慮者を包摂した事業『つながる防災プロジェクト【あそぼうさい】』では、9団体に協力を得て開催することができた。防災を身近に感じることで災害が起こった際の備えを遊びを通して体験する機会となった。</p> <p>&lt;放課後健全育成事業&gt; 障害の有無に関係なく安心して過ごすことができるよう、子どもたちと関わり合いながら事業を展開。ヒヤリハットではなく、にやりホッと視点全職員が持ち、子どもの良いところに向けて関わり合い、保護者にも伝えるようにしてきた。「児童館が楽しい」という子どもの言葉を保護者を通して聞くことが多かった。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、子ども自身が好きな遊びやしたい遊びを見つけその遊びを継続できるように、一日の生活の区切りを緩やかにするなど環境を整えながら満足感や充実感を得られる支援を行い、遊びへの意欲を高め自主性を育てている。「∞ベース」は、多くの中高生世代が利用しており、職員とのおしゃべりを楽しんだり、小学生と触れ合って遊び、交流を通して小学生の子どもの存在にもなっている。職員の行事の準備を率先して手伝う姿も見られ、地域の中での居場所作りと共に自己有用感を感じられる支援を行っている。また、「∞ベース」を利用する子ども達の学校の担任が来館して子ども達の児童館での様子をみたり、児童館職員と情報共有をするなど、中学校との連携強化にも繋がっている。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、プレママ・パパ対象の「はぐはぐ」は区役所の家庭健康課の協力のもと定期的に開催した。助産師・先輩ママの話の聞いたり、実際におむつ交換などの育児体験をすることで育児不安を軽減できるような支援し、出産後の居場所としての「児童館」についても情報を提供している。広域からの問い合わせもあるほど人気の行事となっており、児童館が中心となって妊娠期からの途切れない支援を行っている。</p> <p>地域交流推進事業においては、毎号の児童館便りやSNSを通して、「遊びの重要性」をテーマにした館長のミニエッセーを掲載している。この取り組みは保護者や関係機関と、子どもの発達や児童館での様子について共有が図れると共に、遊べる場所や育児相談できる場所としての周知にもなり、新たな利用者の増加に繋がっている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、子どもとの関りの中で見られた「にやり・ほっと」する様子を職員全員で共有して支援に繋げている。子ども達の成長を文章化する、子どもの良いところを高めていく、肯定的なフィードバックを行う、そのフィードバックを保護者とも共有するという取り組みは、子ども達に対してのより良い支援と職員の資質向上に繋がっている。</p>	S

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課